

「東井義雄先生のお寺を訪ねて」

高岡教区 永賢寺 住職 麻生達乗

2014年
(平成26年)
9月1日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区五位組

題字・織田隆夫

平成二十一年五月十八日、かねてから念願だった兵庫県の東井義雄先生のお寺を、家内と訪ねました。先生のご長男のお嫁さんの浴子さんに案内されて書斎に入りました。先生が腰掛けて原稿を書いていらつしやつた愛用の椅子に腰掛けさせてもらい、感激しました。先生の生前のお話をいっぱいお聞きし、先生の著書『大いなる願いの中の私』を頂きました。その著書に「病院の外に健康な日を二日ください」という大島みち子さんの詩が載っていましたので、ここに紹介しましょう。

相愛の間柄になったのですが、とうとう一緒になれずに、短い生涯を病院のベッドの上で閉じていったのです。そのみち子さんの「若きいのちの日記」の中に、次の詩があります。

病院の外に 健康な日を二日ください。

一日目
わたしはとんで故郷に帰りましょう。
そして
おじいちゃんの肩をたたいてあげて、
母と 台所に立ちましょう。
父に 熱カンを一本つけて
おいしいサラダをつくって
妹たちと
楽しい食卓を囲みましょう。

二日目
わたしはとんであなたの所にいきたい。
あなたと遊びたいなんていいません。
お部屋のお掃除をしてあげて、
ワイシャツにアイロンかけてあげて
おいしい料理をつくってあげたいの。
そのかわり
お別れのとき
やさしくキスしてね。

三日目
わたしは ひとりぼっちで
思い出と遊びましょう
そして、静かに一日が過ぎたら
三日間の健康 ありがとうと
笑って 永遠の眠りにつくでしょう。

何という、つつましい、美しい願いでしょうか。かわいがっていたおじいちゃんの肩をたたいてあげて、一番にあげてい



るのです。大好きなお母さんと一緒に炊事をする事の中に、お母さんの娘に生まれたいあわせを味わおうというのです。ご苦労をかけたお父さんに熱カンをつけることの中に、妹たちと楽しく食卓を囲むことの中に、最後のしあわせを味わおうというのです。

愛する誠さんに対しても、お部屋のお掃除の中に、ワイシャツにアイロンをかけることの中に、誠さんの好きなお料理をつくることの中に、人として生まれたしあわせを味わわせてもらいたいというのです。

家庭の中に生きる者なら、誰でもがやっている家族と家族なのであいの中に、誰でもがやっている家事の中に、粗末にはならないものがあるのだということ、みち子さんは、教えてくれているではありませんか。私たちが忙しい、忙しいと煩わしく考えていることの中に、大切なものがあることを、みち子さんは教えてくれている気がするではありませんか。

そして、そこに、私たちに對する仏さまの願いもあるのではないのでしょうか。忙しい、忙しいと、しかも面をして歳をとり、生涯を終える為に、私たちは、この世に出していただいたのでしょうか。



東日本大震災支援活動報告

長光寺 織田隆夫

災害より三年六ヶ月、原発や放射能のマスコミ報道も少なくなり、今福島は人々の記憶から忘れ去られようとしています。しかし、放射能避難者の生活は震災時点とほとんど変わらず、避難者数十四万人、震災関連死(自死・衰弱死・過労死・ストレス死・病死)も三千人を超え、除染は全体の二〇%弱、除染しても数カ月後には放射線量は元に戻ってしまい、汚染土の処理方法も決まらず、放射線量の上がっている地域もあり、行政のあいまいな帰宅宣言により一部補償金もカットされ、苦悩、諦め、苛立ち、怒り、悲しみの中に希望と未来を想像する生活です。

このような状況の中、高岡教区災害対策専門委員会では、『今お寺に出来ることとは』をスローガンに、今年も、飯館村の方々へのホームステイ事業を行いました。三年目とあって、十一家族四十六名(一歳〜七十二歳)の方々がお越しになり、「大変楽しみにしておりました。まるで故

郷に帰るような気持ちでおります。」との多くの声も聞かれ、三泊四日の有意義な日々をともに送りました。

五位組では、八月十日夕方より長光寺に分宿された大谷さん家族との懇談会も開催致しました。小さな子供を抱え、苦しい胸の内をお話いただき、涙が止まりません。福島から放射能がなくなるまで、この活動を続けて行きたいと改めて心に強く思う時を過ぎました。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



『相馬に富山米を送ろう!』

高岡教区では、平成二十三年十一月より、行っておりました福島お米支援を本年も行う計画でおります。今年で四回目でも本年も九月中

自坊紹介

福禅山永念寺は立野のちようど真ん中に位置するお寺です。もとは中保にあり、その当時栄えていた立野に十一代目の住職が移って来たと考えられます。古い書物によると、私は二十二代目になります。もとは真言宗でしたが、四代目の時に浄土真宗に転派していると残されています。



旬より募集案内をし、十一月一日〜三日までに高岡教務所にお届けくださるよう、よろしくお願い致します。十一月中旬には、相馬にお届けいたしたく、ご協力よろしくお願い致します。



永念寺山門

本堂前にある山門は二階部分に梵鐘がある珍しい造りとなっております。

昨年には親鸞聖人七五〇回大遠忌法要・蓮如上人五〇〇回遠忌法要・本堂屋根修復落成慶讃法要も皆様方のおかげで勤めることができました。近年中には山門と庫裏の屋根の修復を終える予定です。沢山の方々御来寺くださるようにと本堂裏には新たに墓地を造りました。もしご入用の方がおられましたらお申し出下さい。

☎〇七六六一三二一〇八三三

報 恩 講 ご 案 内

各寺院の報恩講の日程順に
記載してあります。

どうぞお誘い合わせの上、お参りください。
詳細については、各寺院にお問い合わせください。

石堤 長光寺

※親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

九月二十七日

夜 七時 夕べの集いコンサート

九月二十八日

朝 十時 全物故者追悼法要

昼 二時 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

法話 氷見市布施 圓山 望師

上向田 浄永寺

十月四日 昼 一時三十分

十月五日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 福岡町土屋 山岸 智史 師

赤丸 性宗寺

十月十一日 昼 一時三十分 夜 七時

十月十二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 射水市市井 公文名 眞師

四日市 浄明寺

十月十四日 昼 一時三十分 夜 七時

十月十五日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 射水市市井 公文名 眞師

辻 西福寺

十月十六日 昼 一時三十分

十月十七日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

石堤 法善寺

十月十八日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

十月十九日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 福岡町舞谷 麻生 達乗 師

※十九日は祠堂経法要

立野 永念寺

十月二十日 昼 一時三十分

十月二十一日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 小矢部市興法寺 立川 証 師

三日市 光源寺

十月二十二日 昼 一時三十分 夜 七時

十月二十三日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

本保 本正寺

十月二十六日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市内島 岡西 法英 師

佐加野 光明寺

※本堂修復の為、休座

内島 教願寺

十月三十日 昼 一時三十分 夜 七時

十月三十一日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

石堤 長光寺

十一月一日 昼 一時三十分

十一月二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

夜 七時

十一月三日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 氷見市布施 圓山 望師

中保 善教寺

十一月三日 朝 九時三十分 昼 二時

法話 氷見市中田 清水 朗 師

笹川 廣濟寺

十一月五日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

夜 七時

十一月六日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

十一月七日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

夜 七時

十一月八日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

山岸 珉照寺

十一月十六日 昼 一時三十分 夜 七時

十一月十七日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

舞谷 永賢寺

十一月二十三日 朝 九時三十分 昼 一時三十分

法話 富山市婦中町 竹中 了祥 師

第十六回五位組

夏休み子ども大会

西光寺 養藤直哉

今年の夏休み子ども大会は、運悪く石堤小学校の三年生以上の登校日と重なったため、地元の児童の参加は少なくなってしまう。しかし、他校の小学生や石堤保育園児、学童の一、二年生も参加し、約四十名の子供たちが夏休みの一日を楽しく過ごしました。



最初に組長より本堂を使う上での礼儀作法や大会の目的を聞き、合掌・礼拝、念珠・経本の扱い方を学んだ後、声を合わせてお勤めをしました。普段は正座をしない子供たちが真剣な面持ちでお勤めをする姿はたいへん微笑ましいものがありました。楽しくゲームを行う中で、初めて出会う他校の児童とも打ち解けていき、自転車やスケートボードのショーでは、あまりにすごい技の数々に歓声を上げるのも忘れて見入っている姿も見られました。讃歌の指導では、初めて歌う歌にもかかわらず、麻生先生のフルートの音をよく聞いて、みんなが声を合わせる事ができました。紙芝居では、蜘蛛の糸などのお話に身を乗り出して聞き入っている姿が印象的でした。

猛暑の中、本堂や境内で普段は経験することのできない体験をした一日でしたが、帰っていく子供たちの顔はみな一様にさわやかでした。



五位組行事予定

ビハーク研修会

十月八日(水) 十九時から
場所 長光寺

門徒総代会研修会

平成二十七年(二〇一五年)
二月二日(月) から
二月三日(火) まで
金沢方面へ一泊研修

実践運動研修会

平成二十七年(二〇一五年)
三月予定

歴史講座

平成二十七年(二〇一五年)
三月十五日(日) 十九時から
場所 長光寺

第一期五位組連続研修会(連研)

平成二十七年(二〇一五年)
三月 開講予定

編集後記

み教えの本来の姿は、信心をえたすべてが、その報恩の実践として伝道していくものです。阿弥陀如来の本願によつて、自我の心がひるがえされ、本願のところに生きることです。それは、まったく平等な人間関係にあり、また、社会にもその関係をきりひらいていこうとする積極的な姿勢を生みだすものであります。

しかし、それは、単なる自己の幸いのみを願うのではなく、お互いの人格の平等な関係を無限に開いていくことをめざした、御同朋御同行のころであります。

来春三月より始まります第十一期連続研修会の、話し合い法座がこのような思いを共有しあえるような雰囲気づくりが大切だと考えております。

合掌